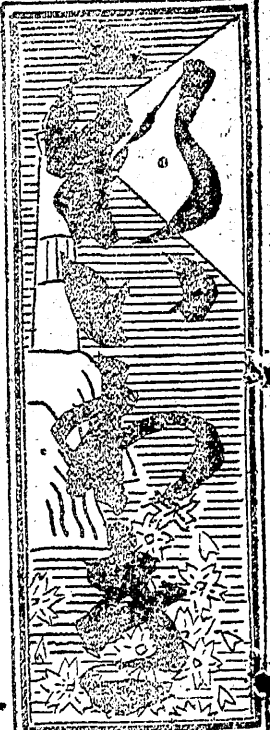


【刊夕 日一十三月二十】

# 謹賀新年



日曜大祭  
一月廿五日  
一月廿六日  
一月廿七日  
一月廿八日  
一月廿九日  
一月三十日  
一月三十一日

## 迎春辭

新しいきは昨年三月の創刊以來  
大方諸彦の絶大なる御同情と御後  
援とによつて十箇月を闊し茲に本  
紙最初の新春を迎ふることになり  
ました。

過去十ヶ月を省みれば創刊早々  
の整齊全からざる上に適々財界受  
難の秋に會しながら社内同人の克  
己よく呱呱の聲明としたる正しき  
報導をよくし得たることを喜ぶも  
のであります。

併しながら尙ほ決して之れに満  
足するものではなく此の慶ぶべき  
新年を迎ふると共に更に一層の勇  
を鼓し紙幅まことに小なりと雖も  
脚を正義人道の上に立て社會民衆  
の友となりて其の態度を公明正大  
に飽くまで本紙創刊の趣旨を實現  
し諸彦の御期待に添はんことの奮  
闘を決心致して居ります。

將來倍舊の御高庇を賜はらんこ  
とを茲に謹んでお願い致します

昭和六年一月元旦

## 年頭所感

平町長 伏見彦衛  
空前の經濟難に當面して  
昭和五年を送り之れが打開  
の最大使命を帯びて新なる  
昭和六年の新春を迎ふ町民  
と共に鋭意この難局に所し  
謬らざらん事を期したい  
從來幾度か口にして實際  
是れが實行に至難なるもの  
も少なくないが是等は此際  
是非熟慮断行したい、消極  
的に云へばもつと生活を簡  
易にしたい、冗費を省きた  
い虚禮を廢したい、個様の  
學柄はまだある、積極  
的に云へば体育を奨励した  
い、早起の習慣をつけたい  
時間を確保したい、もつと  
お互の業務に丹精したい、  
能率を増進したい、私は先  
般學校の先生の手に依つて  
新聞配達、牛乳配達、納豆  
賣等をなし居る子供達を調  
べたが其間にはなか／＼感  
心するものがある、もつと  
内容を調べて見たいと思ふ  
平町の商業は他方面に比  
し不景氣の裡にも幾分活氣  
があり油が乗つてゐると云  
はれて居る、是れは當業者  
諸君の熱心勉強の結果と思  
ふが、本年は農村の購買力  
が減じてゐるので儘かに商  
業に大打撃があると思ふか  
ら出來得るだけ趣向を凝ら  
し誠實を以て賣行の滑らか  
ならんことを望みたい、自  
分も商工振興の爲めには當  
事者諸君の意見を聞き出來  
得るだけ努めたいと思ふ、  
其他の業務に従事する方

### 休會明の議會へ、國民負擔減輕の陳情

貴衆兩院に國民の擔稅苦  
を訴ふる全國町村長會が

全國町村長會の一大結束の輕減を断行し以て民力  
に加はり一萬一千餘名の連休發の途を離するに  
を以て新春頭休會明け  
の今議會に提出せんとする  
國民負擔減輕の陳情書に對  
する石城郡支會の

### 調印は 去廿一日

去廿一日、本縣  
でに全部の調印を了し本縣  
分の全額は來る六日完了す  
ることになつてゐる陳情書  
項は左記に關するもので其  
の要旨は現時の經濟界が極  
度の

### 不況の 結果國民の

所得は順に激減して其日の  
生活の保持にすら吸々たる  
の際に於て公租負擔は毫も  
減少せられずや殆んど懸  
税力の喪失を見んとするの  
危機に 瀕しつゝ、あ  
る此の場合國民各自に於て  
發奮努力治産の途に向つて  
最善を盡すべきは勿論であ  
るが一面然として公租負

### 危機に 瀕しつゝ、あ

る此の場合國民各自に於て  
發奮努力治産の途に向つて  
最善を盡すべきは勿論であ  
るが一面然として公租負

堀江工業株式會社  
江口 忠一  
平町極道小路  
電話五一九番

代議士 木村清治  
代議士 比佐昌平

石城郡  
銀行組合  
立憲政友會  
本縣支部  
幹事長 鈴木辰三郎

縣會議員 古川傳一  
縣會議員 山崎吉平

東部電力株式會社  
平營業所  
電話七五番

### 平局今年の年賀状

#### 廿四萬六千四二枚

#### 到着十一萬三千二百枚で 發送一割到着一割九分減

今元朝から清掃の各戸に配を減する十一萬三千三百三達される平局今年の賀状特十四枚が廿九日迄の特別取扱取扱数は今年の縣議改選数であつた

### 見込

までも祟る深刻な不景氣は六十二口を減せるも結局前年に比して二萬七千六百九十九枚(一割)を減する二十四萬六千四十二枚が發送の

總數で 之れに準じて到着數に於ても昨年の十者に集中されてることを示四萬五百八十枚より二萬七千二百四十六枚(割九分)

### 農村經濟苦に處し

#### 飯野村の緊張振り

#### 何でも作つて自給自足 疑念耐へて買はぬが第一

石城郡飯野村では農村の生常なる緊張を促した産する總てが暴落して目も當てられぬ慘狀に對し伊藤村長を初め村内有志を擧げて奮起の策に

### 腐心の

結果此際の方法としては村民の自覺に俟ち徹頭徹尾自給自足によるの外なしと農村經濟の邊所に左記標語を作りポスター數百枚を刷つて各戸に配付し 極力その趣旨宣傳に努め村民一般に非石城郡中堅農民講習會では

### 中堅農民の 連續講習

來二月一日から十日間

### 土壤と肥料の講習會

來二月一日から十日間

本縣農事試驗場の主催する石城地方農事同窓生への土壌と肥料に關する講習會は來二月一日から五日まで同郡植田町小學校講堂に於て開催されるが講師は本縣の田中肥料獎勵官外一名に

### 併句

#### おめでた記 (一)

新年おめでたう御座います昨年中は夏の始めから永々どくだらぬ評議談議を續けまして讀者諸君の御眼を煩はしませ深く謝する處があります、最うやめやう

### 小松幹夫氏 殺害犯人 遂に絶命する

去月廿二日夜双葉郡龍田村の小松幹夫氏を殺害したる犯人同村猪狩傳(○)は被害者との渡合つた際受けた頭部損傷が良好のため漸次増員し七日以來平町共済病院に入合の如きも八割五分乃至九院中であつたが廿一日午前割の精勤を示し來る昭和六年に於ては百名の希望に達するであらうと云はれて

### 昭和六年に 平町は何を なすべきか (一)

世界恐慌は資本主義の没落に原因するの、金貨の米佛二國に偏在することに原困するの、そんなことは別問題として、平町民總員が逆立して騒いでも世界の趨勢である恐慌は如何ともする事は出来ぬ、また現政府の消極政策に對し、平町會が幾十回反對議決を繰り返しても、濱口井上兩氏の

と思ひましたが是非つゞけ争、闘争、強盜、殺人、放る」と起してある句で題がる様にとおだてる諸君も相火、暴行、自殺、他殺等の示す通り去年と今年との別應多く御座いますので引續筆は一切掲載されて居ない毎日の新聞紙がこんな工合時に関の中からは現はる人ならぬが兎に角初刷の分だけを見て居れば天下は太平なりと鼓腹して居られる譯であります皮肉の様で皮肉でない實感であります元日やぐらきより人あらはる、

腦細胞が消極から積極に轉變しては吳服屋さんがカフェ化すると思はれぬ。平町の暖簾をくゞり、牛肉屋民が骨を扶られる様に苦みさんがお醫者様の門をくぐ切つてこの深刻な不景氣、四割の収入減は幾分な對策としては、世界恐慌りとも緩和される結果となるから、町外に逃げ去らぬ金の支出は、第二に考へても遅くないが、電燈料や火焚保險金の如く東京に持ち去られ切りになる支出は節約の第一の目標とならねばならぬ。諸物價は一般に低

落し殊に米の如きは半値に暴落してゐるのに電燈料は一向に下されてゐる、縣内の他の都市主に縣外の諸都市に比し、平町の電燈料は著しく高價である、火災保險率は他都市では多く千圓に對し九圓なるに平町では十圓の高率である。電燈問題と火災保險問題は昭和五年に戦を起したのが塹壕に隠れて未だ接戦に及ばなかつたのである。昭和六年には町民一致團結、一大接戦を覚悟して特別稅戶數割の總額八萬六千圓程度の値下を實現せしめなければならぬ

はしい句であります

## 謹賀新年

### 片倉磐城製糸會社 平工場

### 平看護婦會

### 洋服專門 影山商店

### 木炭移出問屋 草野米彌商店

### 石炭コークス販賣 阿部石炭商店

### 山崎合名會社

### 會津桐材 自製專門 小松はさき物店

### 磐城平町 電話十番

### 磐城平町三丁目 電話六七三番

### 磐城平町 電話十番

### 磐城平町 電話十番

### 磐城平町 電話十番

### 磐城平町 電話十番

### 磐城平町 電話十番

### 磐城平町 電話十番

### 磐城平町 電話十番

### 磐城平町 電話十番

# 石城に取つて大問題

## 昭和六年の炭礦經營

### 苦痛は鐵道納炭の値下げ 水洗の改良と地元の好意

財況悲慘な職々しさに昭所に想像されやう  
和五年を越えた、不景氣も  
大抵底だと云ふ夫れが眞實  
かどうかは姑く描き春を迎  
ふる喜びと共に時久しい經  
濟的萎縮の中から景氣直上  
の聲を聞くことは云ふ迄  
もない幸運である、  
振り返り見る前年の不況  
が全國的否世界的であつた  
であらうが地方的に見る殊  
に吾が石城地方の衰微は炭  
礦業の不況に急轉直下の慘  
を越めた、平町の繁榮を初  
めとし何と云つても當地方  
の經濟は目下のところ炭礦  
の盛衰に支配されるものが  
多い、今茲にそれを數字的  
に上げて見るならば、  
主なる炭礦の毎月出炭  
警炭七萬一千四百噸  
入山三萬一千四百噸  
古河一萬四千九百噸  
福島五千噸  
小田(會社)五千四百噸  
小田(個人)四千五百噸  
其他各小炭礦を合して十五  
萬噸近くを採掘されてゐる  
が此金額は大體八十萬圓で  
之れに従事する役職員並に  
労働者の總數は約一萬人に  
達する一戸平均四人八分、  
(最近の調査)の總人口實に  
四萬八千人に上り地元消費  
額は毎月少くも六十萬圓  
を算するであらう現下の不  
況時に於て此の數字を見る  
のであるから經營が順調だ  
と云ふ時の地方隆盛を立ち

## 石城郡の農產業

### 石城郡擔任農林技手 橋本市二

天恵の地吾石城郡は農產業  
方面に於ても正に縣下隨一  
たる價值を失はない。養鶏  
然り、蔬菜園藝然り、果樹  
栽培亦然り、更に農業經營  
に關する先覺者も近年漸く  
多きを加へ來り、而して又  
之が指導統制には石城大郡  
農會がある。  
最近の調査)の總人口實に  
四萬八千人に上り地元消費  
額は毎月少くも六十萬圓  
を算するであらう現下の不  
況時に於て此の數字を見る  
のであるから經營が順調だ  
と云ふ時の地方隆盛を立ち

も一方法であるが炭礦  
の協調があるの夫れはな  
らず愈よの最終に臨んだ場  
合は兎も角、現在としては  
坑夫の賃銀低下が困難なの  
で結局他の人員整理を行ふ  
一方に於て機械的能率増進  
と合理化經營を圖り各炭礦  
が持つて餘してゐる總出炭高  
の半數に達する粉炭の如き  
を優秀なる水洗機によつて  
市價を高くすることが收支  
の最善策であらうが之れ  
と同時に從來炭礦の所在地  
が用地買収その他に於て部  
落結束の強硬なる態度をの  
み政策としたる誤つた老へ  
を捨て、三井炭坑後の藤  
原の慘を深觀し意味廣い共  
存共榮に心掛けて貰ひたい  
ものであると某有志は語つ  
た

## 平均廿圓

### 經營苦の中か ら警炭の賞與

警城炭礦では久しい經營苦  
を續けてゐるが昭和五年後  
期の利益は半年の三十一  
萬圓より一萬圓を減する三  
十萬圓に過ぎつたので株  
主配當はされなかつたが従業員  
に悲觀されてゐた年末賞與  
を上京中の菅原所長が二十  
九日夜本社から雇員以下四  
百六十五人に對する分一人  
平均約二十圓當りを携へて  
歸山し三十日から三十一日  
にかけて夫々これを一同に  
給與したので時ならぬ喜  
の様に喜ばれた

護賀新車

不動澤炭礦  
所長 高階 一郎  
石城郡内郷村

良品廉賣に  
久釜屋商店  
優る商略なし

常磐線平驛前  
平運輸株式會社  
電話二番、一七番、三七番  
振替東京二八八六番

濱三郡木炭同業組合  
組合長 早川 清久  
双葉郡富岡町

警城平町字田町  
中島 寫眞館  
館主 中島 孟

醫療藥品 工業藥品  
有名賣藥 檢具染料  
醫療器械  
平町四丁目  
小野常治商店  
電話一四四番

平町播道小路  
ライト寫眞館  
電話五三五番

福島縣平町  
警城共濟病院  
院長 難波 睦  
主管 賀澤 忠治

債券(兩替) 平町大工町  
公債(金融)  
質物(一般)  
取扱  
多田井商店  
電話五九一番

燃料賣買 木材賣買 金融仲立  
業 高橋 龜松  
福島縣平町  
電話六三八番

福島縣  
石城郡  
町村長  
支會

有限責任信用組合  
平庶民金庫  
電話四九三番

會田美髮所  
所主 會田 たみ  
警城平町二丁目  
電話四四四番



畜力の利用  
増進に就て(六)  
生産費の低減  
と畜力の利用

例へば耕地の耕起や代播(し)かき)に一頭の役畜を二人がかりで使役して居る地方が決して珍らしくない勿論土質の如何役畜の如何によつて使役方法の一様に行かぬと云ふ爲もあらうが田や畑の耕起や代播の方法に於ても改良を爲す點が少なくないのである。又中耕除草土寄の様な仕事についても随分馬や牛を利用し得べきにも拘らず依然として人手ばかりでやつてゐる地方も甚だ多いのである殊に最近各地に於て盛んに研究せられてゐる水田の除草に力を利用する點は大いに注目すべき問題であつて本縣に於ても曾津、中通、濱通の數ヶ所を選び前年之れを實施して好成績を納めてゐる。

馬でする  
水田の除草  
水田の除草と云ふことは稲作上極めて重要な作業の一つで従來この作業は人手によつて行はれるに限られて居たもので勞苦はなかく少くないのである。田打車や雁爪の様な器具を用ゆる事によつて幾分勞力の節約はせられて居つたが最近に於ては馬や牛を以て水田の除草をさせる様なことが考案されたのである。

# 謹 賀 新 年

磐城平町

磐城建物株式會社

電話五二八番

福島縣 若松美三  
參事會員

平町藝妓屋組合

縣會議員 野崎滿藏

野崎自動車部 主任 野崎喜八郎  
平町新道通り  
電話六五九番

平町旅館業組合

平町公立 懇和會  
町學校長

平町料理店組合

石城郡湯本町

入山採炭株式會社

田宗雄

平町長

伏見彦衛

平町白銀町  
電話二八二

静岡本場卸小賣  
小笠原茶屋

大角商店

平町才植小路

植田水力電  
氣株式會社

社長 金成通

石城郡植田町

福島縣農事試驗場

石城分場

馬長 稻田彰

技手 矢ヶ崎鍊

助手 小島三千雄

磐城炭礦株式會社

礦業所

石城郡内郷村

石城郡第三區

小學校長會

お乗合(好)間

三井自動車部

平町二丁目横  
電話六八五番

常磐線綴驛前

鐵道 日野運送店

日野はな

石城郡小名濱町

磐城水産株式會社

電話六六番

小名濱町長 鈴木榮

石城郡 小野晋平

電話六番

勳四等

安島重三郎

石城郡山田村

明雲堂

眼科醫院

平町驛前  
電話六六九番

石城郡

勿來町長

大平陸四郎

電話五七番

石城郡

飯野村長

伊藤淺之助

石城郡

錦村消防組頭

山崎登

石城郡平町

町會 一同  
議員